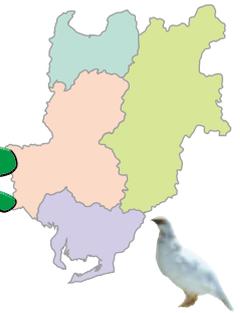




国民の森林・国有林

広報

中部の森林



中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/>



パネルディスカッション風景

大型猛禽類の生態と森林施業

~生物多様性の観点から~

(P2に関連記事)

主な項目	○ 大型猛禽類の生態と森林施業 P2
	○ 森林教室・地域とのふれあい P2~4
	○ 各地からのたより P4~6



この広報誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

「大型猛禽類の生態と 森林施業について」 講演会を実施

【指導普及課】 十二月八日、長野市において、「大型猛禽類の生態と森林施業について」の講演会を実施しました。

この講演会は、今年六月に生物多様性基本法が施行され、二〇一〇年には生物多様性条約第十回締約国会議（COP10）が愛知県で開催されるなど、生物多様性や生態系の維持・保全の取組に対する国民の期待が高まっていることから、自然界の食物連鎖の頂点にあり、自然の豊かさや安定を示す指標とも言われるイヌワシなどの大型猛禽類を取り上げ、その生態と生息環境である森林の整備のあり方について考えるものです。

講演会では、山形県の自然写真家、今井正氏による「大型猛禽類イヌワシ・



意見交換を行ったパネラーの皆さん

クマタカの生態とその環境」について基調講演、続いて長和町イヌワシ調査グループの峰岸郁生氏からイヌワシの採餌環境改善のため人工的にノウサギなどの「隠れ場」を作る取組について基調報告が行われた後、岩手県立大学教授由井正敏氏をコーディネーターとして、パネルディスカッションが行われました。パネラーは、長和町イヌワシ調査グループ代表の片山磯雄氏、日本野鳥の会長野支部長小柳守男氏、長野県環境保全研究所の堀田昌伸氏、当局計画部長の上野司郎で、イヌワシ、クマタカの生息についての報告や、イヌワシの繁殖率の低下により、種の存続が懸念されており、その原因として、繁殖期における周辺環境及び採餌条件の悪化などが指摘されました。また、森林整備として実施している列状間伐地で、猛禽類の営巣・餌場として利用している事例が報告されるなど、林業にも役立ち、生物の多様性保護にもつながる森林整備を更に広めることが必要との見解が示されました。

当日は、夕方六時から八時半まで行われ、日本野鳥の会始め、一般市民、行政・企業関係者等約一三〇名が参加しました。

参加者から出されたアンケートには「健全な林業経営が戻れば猛禽類にとってもうまくいくと思う」、「本日のような情報発信をもっとやることで、林業・森林行政への理解が進むのではないか」と

の意見の他「民有林も含めた広域的、総合的視野をもつため、システム作りが必要なのではないか。また、猛禽類がいることで民有林所有者にとってメリットになるような施策があったらすばらしい」等の意見がありました。

中部局として、間伐等の森林整備を進めるに当たり、生物多様性の観点から、さまざまな取組を実施することとしていきます。

森林教室・地域とのふれあい 青く澄みわたった秋空のもと 「青空森林教室」を開催

【指導普及課】 十月二十二日、長野市の芹田小学校の五年生、二十九名が中部局を訪れ、「青空森林教室」を開催しました。

初めに児童の代表からインタビュー形式で質問があり、「中部森林管理局はどんな仕事をしているのですか」、「台風などで倒れた木は、どうするのですか」等、森林や木、国有林の仕事、環境問題等、様々な質問がされ、回答を一生懸命ノートに書き記しながら、興味深く耳を傾けていました。

その後は、広葉樹の輪切と枝を使ったネームプレート作り（木工クラフト）に取り組みました。児童たちは「木の枝を使ってネームプレートが作れるとは思わなかった」、「木を使ったらこんなことも



木工前に説明を受ける児童

できるんだ」と感心しながら、出来上がったネームプレートを掲げていました。

国有林へ行こう！

一般公募 遠山郷の国有林を訪ねて

【南信署】 当署では、森林の重要性などを一般市民に広くPRするため、三年前から国有林の見学会を行ってきています。

去る、十月二十九日、飯田市の広報誌を通じて公募した四十六名の市民と二十四名の飯田市議会議員が当署管内の国有林を訪れました。

今回は、治山事業、シカの食害と対策及び森林整備事業の現状について見学してもらいました。

参加者からは、シカの食害で下草がまばらな現地を見て「笹の葉まで食べ尽くすのか」、「食害ネットの巻き付けなど苦労が多いでしょう」と、また昭和四十

年代の治山施工地では「工事をして森に戻すことが治山工事なんです」と、緑が回復してきた箇所を見て驚きと感心の声を上げるなど、あらためて森林は身近にあり、安全と安らぎなどをもたらしてくれていることを再認識していました。

当署管内には二十六市町村に及ぶ国有林等があります。来年以降も数カ所ずつ国有林見学会を企画し、地域の方々にも有林の取組を紹介することとしています。



参加者との記念写真

紅葉の中で観音様探しに汗

「東濃署」十一月八日、加子母裏木曾国有林内にある付知峡自然休養林において「紅葉の『裏木曾の森』で三十三観音を探そうツアー」が開催され、地元の中津

川市が公募した三十名と、当署職員四名が参加しました。

三十三観音とは、御嶽山まで続く登山道のうち、中津川市加子母から長野県王滝村までの区間に祀られた三十三体の観音像（石仏）のことで、一五〇年ほど昔から御嶽講の行者や旅人の安全を見守り、道しるべとしての役目も果たしてきました。

戦後は道路等の発達により忘れ去られていきましたが、平成十四年から地元「古道木曾越と三十三観音研究会」が中心となって搜索、現在までに二十六体の観音像が発見されています。

今回のツアーは、この研究会と付知峡自然休養林で活動する「裏木曾古事の森育成協議会」が協同で企画したもので、紅葉した天然林を歩きながら、まだ見つかっていない観音像探しと「裏木曾古事の森」内のヒノキのカモシカ食害防止ネットの一部取り外しの二つを目的として開催されました。

当日は、少し肌寒い曇り空でしたが、



ナラの倒木の前で小休止

現地では紅葉が一段と映え、とても美しい景色が広がっていました。参加された女性は「すぐくきれいですね」と景色に感激しながらも真剣な表情で観音像を探していました。

今回は、残念ながら観音像は発見できませんでしたが、午後に行った「裏木曾古事の森」でのカモシカ防止ネットの一部除去作業ではヒノキを傷つけないよう慎重な作業に爽やかな汗を流し、登山道散策に森林整備にと、充実した一日となりました。

「法人の森」が地域に「役」

都市部企業と飛騨の結び付きに

「飛騨署」十一月七日、日本品質保証機構の法人の森「JQAの森」の活動が、大阪、名古屋、東京の社員など十五名が参加し、夏既部内の彦谷国有林において実施されました。

今回は、機構の小林専務も参加し、記念植樹の雪囲いと歩道へのウッドチップ敷き、県道沿いの清掃活動などに取り組みました。

この法人の森は、高山市が都会の企業に森林整備活動に取り組める場を提供しようと東京都千代田区に協議を進めてきたところ、同区に本部を構えている日本品質保証機構が名乗りを上げたことから、国有林の活用を願う当署も積極的に関わることとなり、昨年に設置されたものです。



JQAの森で活動する社員

当日は、國島副市長から「千代田区の企業がすでに高山市内の国有林で森林整備活動に取り組まれていることを知って心強い。こういったご縁で皆さんに飛騨へ来ていただきありがたい」といった話が出され、小林専務からは「初めて来ましたが町並みなどすばらしい。千代田区とのご縁で当社も環境関係の業務であり、お越しの節は是非当社へお寄りを」といった話が出されました。

後日、機構と参加者から大変いい経験ができた。「JQAの森」を活用したイベントが毎年開催してほしいといった意見が出され、法人の森が都会と飛騨をしっかりと結びつけてくれました。

もうすぐサントアがやってくる！

「出前授業（親子でリース作り）」を実施

「指導普及課」十二月一日、長野市の信州大学教育学部附属長野小学校において、四年生の児童・保護者合わせて約

八十名を対象に「出前授業」を実施しました。

この「出前授業」は、同校の四年生の PTA による自主活動行事の一環として、子供たちに山や自然の大切さを理解してもらおうと共に、木工クラフト製作を体験させたいという趣旨のもと、依頼を受けたものであり、子供たちが楽しみにしているクリスマスに向けて、リース作りを体験してもらいました。

オープニングのあいさつの後、四十組の親子に分かれ、山葡萄の蔓をベースに、まつぼっくりやどんぐり等、森林の恵みを沢山使って、趣向を凝らした様々な飾り付けをしながら、また時折、クリスマス風の装いを増していくリースを眺めながら、作業に取り組んでいました。

後片付けの後、完成したリースのミニ展覧会を開催し、鮮やかに着飾った個性豊かなリースの出来栄に、参加者全員が和やかな表情を浮かべていました。

「出前授業」も終わりに近づき、課長補佐から森の役割や働きについての話をし、最後に四十本のリースを掲げ、クリスマス



みんなで「メリークリスマス！」

色の華やかな雰囲気の中「メリークリスマス」の掛け声とともに、みんなで集合写真を撮り終了となりました。

ツリーハウス・キャンプ、楽しんでファミリー・フォレスト・ガーデン

「国有林野管理課」ファミリー・フォレスト・ガーデンは、国有林を家族や友人などに貸し出し、自然環境に親しんでもらうことを目的に、平成十二年度から実施しています。

当事業は、北信森林管理署管内の「カヤノ平自然休養林」において、十八区画を設定し、実施しています。

当地域は樹齢七十五年から九十年のシラカバやブナなどの天然林がある木島平村郊外のカヤノ平自然休養林で、この一帯は森林セラピー基地にも認定されています。

今年度は、新たに十一区画の募集をマスコミを通じて行ったところ東京都在住者を含め、二十二名の申込みがありました。募集した五区画で、競合したことから、十一月十八日に抽選



抽選会の様子

会を実施し、当選者を決定しました。

来年度以降も自然とのふれあいの場を提供していくとともに、利用者との交流会等の機会を通じて親睦を深めることにより、開かれた国有林の情報発信に努めて参りたいと考えています。

各地からのたより

治山・林道現場責任者研修会の実施について

「中信署」十一月十二日、長野林業土木協会中信支部主催の現場責任者研修会が開催され、二十四名の現場代理人・主任技術者と、当署の署長をはじめ監督員八名が参加しました。

午前は、芦間川復旧治山工事現場において工事の概要説明の後、施工状況を見学し、現場代理人からのコンピュータソフトによる工程管理についての説明に、参加者の注目が集まっていました。

午後は、大北建設会館に場所を移し、署長より「岩手・宮城内陸地震の対応」と題した講演と、治山・林道担当者から保安林制度・施工及び安全管理等について講義を行いました。

参加者からは、「治山技術エキスパート部隊の役割が重要と感じた」、「保安林制度上では、治山と林道工事では取扱いに違いがあることを再確認出来た良かった」との感想がありました。

最後に中信支部長より本日の研修会を



研修会に参加した現場代理人等

契機に、一層の施工技術の研鑽に努め、より品質の高い工事の実行を進めていきたいとの挨拶で締めくくり、盛会の内に閉会しました。

人気の間伐作業を実施

「名古屋」十一月十五日、「林内に光を取り込み元気な林に育てよう」として愛知所管内の八曾国有林において間伐作業を実施しました。

間伐作業は、森林整備の充実感からか、毎年人気の企画ですが、安全と区域面積の関係から、募集人数が限られてしまいます。今回も十五名の募集に対し四十二名の応募があり、抽選による選定となりました。

当日は、集合時間から雨がぱらつき、肌寒い中での作業となりました。

作業の方法、安全についての説明のあと、三つの班に分かれて作業を開催しました。足場は良いものの、かかり木の処理に苦労するなど、手鋸での作業に汗が



間伐作業を行って

にじます。昼食時は、暖をとるための一斗缶ストーブのまわりで情報交換の輪ができていました。

午後からは、雨の量も少しずつ増えてきたことから、早めに伐採を終え、搬出に移りました。近い距離ではありましたが、肩に担いでの搬出に、最後の汗をかいて終了となりました。

参加者からは、「もっと伐りたかった」、「来年もぜひ参加したい」などの声が上がりました。搬出した材は一・三以上に玉伐つてあり、来年度のイベント等で木工クラフトなどに有効利用する予定です。

観賞炭のできばえは？

「森林ふれあい講座」

「名古屋」十一月二十二日、定光寺自然休養林内にあるキャンプ場において、第五回森林ふれあい講座「自然の素材を使った観賞炭づくり」と、炭の効用について学ぼう」を開催しました。



炭のできあがりは…

まず、観賞炭について説明の後、用意した松ぼっくりやトチノミ、アメリカカワウのほか、二十四名の参加者が持参したザクロやみかん、柿などを缶に入れ、初殻で満たします。缶のふたが開かないよう、銅線でしっかりと縛ったら早速焼きに入ります。今回はキャンプ場ということで、炊飯所の窯で火にかけました。

参加者は焼き上がるまでの間、炭の効用や白炭・黒炭の違いなどの説明を受け、予め焼いておいた竹炭の窯出し作業を行いました。この竹炭は参加者へのおみやげのため、皆、取りだしに熱中していました。

そしていよいよ観賞炭の出来上がりです。さてそのできあがりとは…。缶を開け、作品が取り出されるたびに歓声があがります。「いい色だ」、「形もきれい」中には残念ながら火の通りの悪い物もありましたが、観賞炭・竹炭と気持ちのいい秋晴れの下の思い出をおみやげに、皆さん笑顔で帰途につきました。

レク森リフレッシュに向けて

「白山白川自然休養林」

「飛騨署」当署では、第四次施業実施計画の予備編成に併せ、レク森のリフレッシュ対策についても検討しており、地域要望を踏まえた取組を行うことにしています。

このため、白山白川自然休養林については、地元白川村を始め観光協会等と打合せを持つ中で、保護管理協議会についてより積極的な活動ができるよう体制を見直すなど、作業を進めているところです。

そういった中で、国有林内の遊歩道が歩きづらいつつあった声が出ていたことから、今回、名古屋林業土木協会庄川支部の皆さんがウッドチップの敷ならし作業をボランティアにより実施しました。実施したのは通称「猿が馬場」と呼ばれる場所で、敷ならされた歩道には、早速散策を楽しむ姿が見られ、紅葉真っ盛りの林の散策を楽しんでいました。

白川村では、ブナ原生林が残る大白川を紹介するとともに、岐阜の白山、飛騨の白山そして白川の白山と呼ばれるよう、合掌集落と集落を支えた白川の自然により多くの方が触れていただけるよう「道の駅飛騨白山」を今年四月にオープンさせました。

さらに、白山白川自然休養林についても東海北陸自動車道の全通ともあいまっ



ウッドチップ歩道で散策する利用者

て積極的な利用が地域から期待されており、当署としてもリフレッシュに向けてより多くの関係者の協働が必要と考えており、今回のボランティア活動はその第一歩として大きな効果があったと考えています。

森林の恵みを素材に

手作りリースに挑戦しよう

「名古屋」十二月七日、名古屋事務所において第六回森林ふれあい講座を開催しました。

都市部の人たちを対象に「森林の恵み」を素材にクリスマスリース作りを楽しんでもらおうと募集したところ、沢山の親子連れから参加希望があり、数日で定員を超える人気の講座となりました。

当日、二十六名の参加者は、フラワーアレンジなどで愛知県内を中心に活躍されている小林宣子先生の指導のもと、リース作りに挑戦しました。

初めに素材となる「森林の恵み」を説明した後、ベースとなる藤蔓にまつぼっくり、どんぐり等を飾り付けし、ナンキンハゼ、ヒイラギ等で色どり良



出来上がったリースを手に

く、個性豊かなリースを完成させました。

家族で参加された人が多く、素材は同じでも、一つ一つ違う作品が完成し、家の中で飾る場所を話し合うなど、出来上がったリースにとっても満足気でした。

参加者からは、「自然の物でこんなに立派なリースができて嬉しい！」等の声が聞かれ、とても有意義な講座となりました。

シリーズ 現場目取之前線

地域とともに

飛騨森林管理署 古川森林事務所

今年度、当事務所を含めた旧古川署管内四森林事務所の直よう事業は、基職と臨時の二名(所属は夏廐)で、各事務所の境界管理・各種調査・林道維持作業等を行ってきました。今日はこっちの林道維持、来週はあっちの収穫調査、それが終わったらどここの巡検といった感じで、日々めまぐるしく変わる作業内容と

作業箇所の中、今年の夏山の作業をキツチリ安全にこなしました。

飛騨署は、二十森林事務所と二治山事業所を抱え事業量も膨大であり、旧署単位の五チーム毎に、協力し合って事業を進めています。

我が「チーム古川」も膨大な事業の完遂に向け、毎週ミーティングをし応援し合いながら事業がスムーズに流れるようにと努力しています。

さて、当森林事務所の目玉は、なんといっても「天生」です。天生国有林は大瀬戸国有林とともに天生県立自然公園に指定されており、高層湿原の多様な植物やブナを主体とした天然林がすばらしく、近年特に入り込み者が増えてきています。

今年度は、「天生県立自然公園協議会」が、「第二十回森林レクリエーション地域美化コンクール」で農林水産大臣賞を受賞するといったうれしいスタートとなり、今年度の活動の励みになりました。

今年度は昨年度から始めた「オオバコ除去ボランティア」に加え「木道修理」や商工会の若手による「オオバコ除去」のボランティアも始まり、活動の輪がとてつもなく広がっています。

森林整備推進協力金についても入山者の皆さんのご理解のもと、今年度はパトロール員の委託料が賄えるほどの資金が集まったようです。協力していただける入山者の理解や、ここに携わる「協議



オオバコ除去に集まったボランティアの皆さん

会」、「パトロール員」等々の熱意があったからこそ結果ともいえます。

ほかに、湿原の乾燥化植物の除去作業も飛騨市と当署とが協力して実施しています。また、通常のパトロールに加え、春と秋には警察署と協議会メンバーとの「合同パトロール」も実施しています。

これからも、地元飛騨市・白川村、協議会、パトロール員、自然案内人協会等々の人達と更に連携を深め、天生の自然を後世に残すため、地域の中で森林事務所として何が出来るのかを常に考えていきたいと思っています。

人のういき

林野庁人事(抄)

十一月三十日付

▽退職(飛騨森林管理署長) 前原 正晴

十二月一日付

▽飛騨森林管理署長(四国森林管理局嶺北森林管理署長)

渡辺 衛市

▽林野庁国有林野部職員・厚生課課長補佐(安全衛生班担当)(森林整備部販売課長) 清水 信之

▽森林整備部販売課長(木曾森林管理署南木曾支署長) 小林 辰男

▽木曾森林管理署南木曾支署長(南信森林管理署次長) 廣田 祐一

▽南信森林管理署次長(企画調整室室長補佐) 丸山 和久

中部森林管理局人事

十二月一日付

▽企画調整室室長補佐(計画部国有林野管理課鑑定官) 大平 重利

▽計画部国有林野管理課鑑定官(企画調整室室長補佐) 牧戸 祥光

▽企画調整室室長補佐(愛知森林管理事務所) 熊沢 幸三

▽富山森林管理署流域管理調整官(森林整備部森林整備課造林係長) 西田 敦

▽森林整備部森林整備課造林係長(中信署大野川森林官) 須貝佳那子

▽中信森林管理署業務課森林ふれあい係長(中信署業務課付) 宮嶋 沙織

▽東信森林管理署業務第一課付(東信署小諸森林官) 下城さおり

▽岐阜森林管理署業務第二課販売係(岐阜署大洞森林事務所) 森下 佳宏

▽岐阜森林管理署大洞森林事務所(岐阜署業務第二課販売係) 丸山 友由

シイノクズ25
実験林・試験地等紹介

カラマツ本数密度調節試験



「中信森林管理署・指導普及課」本試験

は、カラマツ人工林の育林技術体系確立の一環として本数密度の強度別効果を判定し間伐の時期、方法等を検討するため、昭和四十三年から四十五年間に旧長野局の各署において設定し調査を行ってきたものである。中信管内では二箇所を設定していますが、今回は先月に続き二箇所目を紹介いたします。

○試験地の概要

奈川第一国有林 三一九林班 は小班
 設定年度 昭和四十四年度
 植付年度 昭和二十八年

設定時林齢 一六年生

面積 一、三五ヘクタール

標高 一、三二〇メートル

地位 一一二

○試験区の設定と調査方法

試験は本数密度調節回数一〜三回の実施と比較することとし、強度区、中度区、列状一／三区、列状一／二区、及び本数調節を行わない対照区を設けました。なお、列状一／二区は強度区と同程度の密度です。密度調整は設定当時行つたほかは、実施しておりません。標準区

は、各試験区の密度相違による影響を考慮しておおむね中央部に設けました。一箇所の標準区は〇、〇五畝としています。標準区の立木について胸高直径一ミリ単位、樹高は一〇センチ単位に測定し五年毎に調査実施することとしました。

◎試験結果

(S44年とH14年の比較表参照)

△胸高直径

胸高直径は各試験区ともに順調に推移していますが、各試験区ともに同様な数値を示しています。これは、現在の密度が七〇〇〜八二〇本／畝のなかであり試験区による相違がないためと判断されます。

△樹高

特に各試験区とも大きな違いはありません。本数密度との相関は認められませんが、概ね胸高直径に相関があると判断されます。生長率についても本数密度との相関は明らかではありませんが、直径生長との相関が認められます。

△蓄積と胸高断面積

最も蓄積の高い対照区と低い列状一／二区では一一五m³/畝の差があり本数・直径・樹高の相関からと判断されますが本数密度が近いことから本数調節の効果が少なくなってきたと判断されます。

試験区	直径 (cm)		樹高 (m)		本数 (本 /ha)		蓄積 (m ³ /ha)	胸高断面積 (m ² /ha)	
	H14現在	推移	H14現在	推移	H14現在	低減率	H14現在	H14現在	推移
強度区	26.3	172%	23.4	189%	700	22%	484	40.3	234%
中度区	26.1	186%	22.7	188%	820	41%	533	46.7	203%
列状1/3区	25.3	190%	23.4	193%	740	34%	467	39.0	235%
列状1/2区	25.8	215%	22.5	203%	700	35%	443	38.8	313%
対照区	26.5	202%	24.0	220%	780	52%	558	46.0	190%

各試験区におけるS44年からH14年の推移



319は強度区 (H18秋)

○まとめ

設定から三十四年を経過した四十九年生の林分であり、対照区においては林齢二十五年生から枯損低減が急激になり四十九年生では五十二割でした。この急激な低減が直径・樹高とも他の試験区に比べ大きな数値を示したと考えられました。なお、強度区においては低減が低く二十二割でした。直径・樹高の比較では試験区による大きな違いは認められませんでした。本数密度が近接してきているものからと考えられます。なお、当該試験地は平成十九年秋に間伐を実施しており、五年毎の調査を継続していくこととしています。

○所在地 長野県松本市
 ○報告書は「試験調査報告」平成十八年度 中部森林管理局 三十九頁



下流から望む横川渓谷

横川渓谷

「南信署」長野県伊那谷の北部に位置する上伊那郡辰野町、その市街地から西部へ約十五キロ、横川川の上流部に位置する横川国有林内に景勝地の横川渓谷があります。

中央アルプス最北端の経ヶ岳を源とす

ふう けい き こう
風景紀行
横川渓谷
 44
 南信森林管理署
 (各署の景勝地等を紹介)

る全長十八キロメートルの横川渓谷は、カラマツ、ヒノキを中心とした人工林からコメツガ、ヒメコマツ等の天然林が優れた渓谷美を形成し、清流と美しい森林、四季の変化は豪快で大きな感動を与えてくれます。

横川渓谷には、国の天然記念物に指定

されている「横川の蛇石」があり、粘板岩に変成岩の層が貫入してできた岩が川

底に横たわっている様が、大蛇のように見えることから蛇石と呼ばれています。

また、横川川の支流黒沢にある「三級の滝」は、原生林の中で三段に折れ曲がり落下する壮大な滝です。

(※現在は二〇〇四年の台風二十三号の影響で遊歩道が崩落しており、行くことができません)

「横川の蛇石」の近くには、横川渓谷、蛇石キャンプ場があり、野鳥観察や森林散策を楽しむこともできます。

四季を通して訪れる人々に感動を与え、紅葉のシーズンは、その表情が日々変わり、渓谷の美しさは神秘的なものへと変化します。



横川渓谷の紅葉

◆アクセス

(所在地)

長野県上伊那郡辰野町

○車でお越しの場合

・中央自動車道伊北ICから辰野町方面へ降り国道153号を北へ四十分

「川島駅入口」交差点を左折

・長野自動車道塩尻ICから辰野町方面

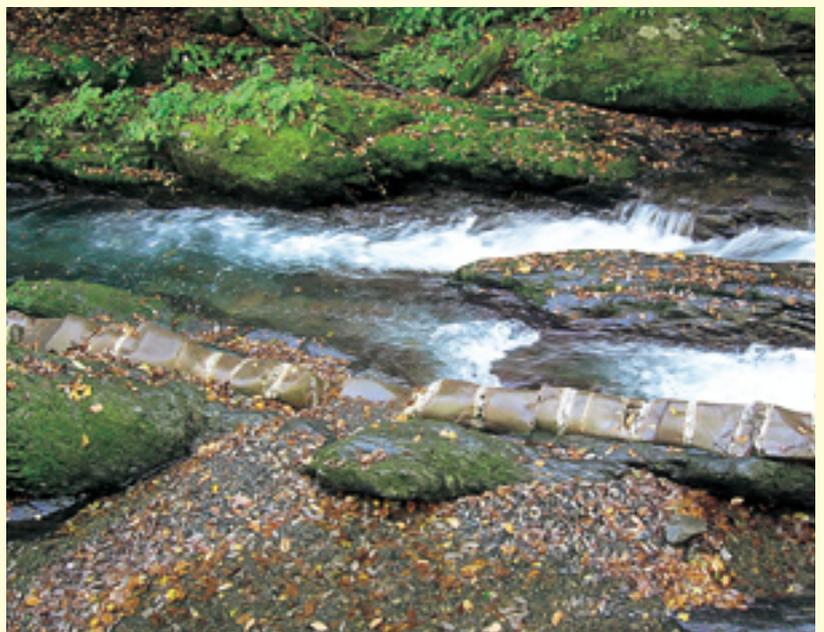
へ向い国道153号を南へ四十分

「川島駅入口」交差点を右折

○公共交通機関をご利用の場合

JR中央本線辰野駅下車タクシーで三十分

「写真提供・辰野町産業振興課」



横川の蛇石

行事・会議等の予定

◎事業担当課長会議

1月15～16日 林野庁

◎治山課長会議

1月21日 林野庁

◎治山事業ヒアリング

1月27～28日 林野庁

◎富山県砂防治山地方連絡調整会議

1月29日 富山市